

釧路湿原自然再生協議会
第 26 回 再生普及小委員会
議事要旨

日時：平成 28 年 1 月 15 日 金曜日 13:30-15:30

場所：釧路地方合同庁舎 5 階 第 1 会議室

1. 開会
2. 議事
 - 1) 再生普及小委員会の活動報告
 - 2) 自然再生の普及のためのパンフレット作成について
 - 3) 釧路湿原自然再生協議会基金の活用方法について
 - 4) その他
3. 閉会

【議題 1. 再生普及小委員会の活動報告】

高橋委員長

再生普及小委員会の活動は、第三期となり年が明けて最初の再生普及小委員会となった。

本日の配布資料「第 3 期釧路湿原自然再生普及行動計画」の 12 ページにあるように、再生普及小委員会の役割や活動範囲は、新たに作られた「地域づくり小委員会」と分担する形となった。

事務局 環境省 渡邊

資料説明（資料 1-1, 1-2, 1-3）

高橋委員長

色々な企画を立て、様々な活動団体や行政の企画などとの連携や普及啓蒙を行うなどの活動を行ってきた。これらに関して感想や意見があればいただきたい。

また、ワンダグリーンダプロジェクトの活動では、大学の研究室などから参加いただくなど、少しずつであるが参加者が増加し活動も多様化してきた。そのような活動をサポートしたいと考えている。後日でも良いので、良いアイデアや感想などがあれば参考のためお聞かせ願いたい。

資料 8 ページの「各小委員会主催イベントアンケート結果」では、幌呂地区のイベント

が、他の地区に比べて満足度が低い結果となっている。このイベントでは、ヨシを植える活動を行ってもらったが、時間が短かったことから満足度が低い結果になったと聞いている。

このような活動を今後どのように行っていくべきか、ご意見をお聞かせ願いたい。

神田委員

参加者の意気込みに相反して、設定時間が短く少し植え付け作業で終わってしまった。参加者からは、昼食も自分で持参するので長時間やらせてほしいという意見があったと聞いている。自分たちが自然再生事業に参加しているという意識や満足感が欲しいということであった。そこで来年以降は、半日で行っていたイベントを一日じっくり行ってはどうか。

ヨシを植えるのにはかなりの人手が必要である。まさに自然再生事業向きの作業であり、専門業者に発注して予算をかけるより、たくさんの方々にボランティアで行ってもらえば一石二鳥である。アンケート結果に基づいて改良して行っていけば良い。

高橋委員長

参加される方は非常に熱心な方が多いため、実際に身体を使って行う企画を重要視した方が良いということである。

神田委員

例えば、今年植えたものを来年また行ってみるなど、モニタリング企画も一緒にやっていけば、次の参加者がさらに増えるのではないか。

参加者の気持ちを汲んで事業に結びつけていけば良い。

高橋委員長

参考にさせていただき、イベント参加者にとって満足感が得られる企画を考えていきたい。

ワンダグリンダのプロジェクトには、大学の活動の一環として参加していただくことが増えてきた。私達がどのようなサポートを行っていくべきかご意見を聞かせていただきたい。

矢吹委員

所属する大学の組織が変更になっていたのご報告する。これまで所属していた生命環境学科は環境共生学類となった。同所属の金子委員も同様である。

現在の環境共生学類学長である吉田剛司に話を聞いた。以前はこちらの出身のゼミ生がいたことから2年ほど一緒にワンダグリンダの活動に参加していたが、学生が卒業してし

まい休眠状態であるということであった。釧路湿原は非常に魅力的なフィールドであるので、細く永く継続的に関わる機会があるとありがたい。高橋委員長に学類に来ていただき話をしていただくなどして、学生に対して研究室単位を越えた周知ができればと考えている。

高橋委員長

何かのきっかけで繋がりができた場合、それが途切れないように継続して参加していたような仕組みをご相談させていただきたい。参加される団体や個人の方の主旨に沿った協力の仕方を考えていきたい。

【議題2. 自然再生の普及のためのパンフレット作成について】

事務局 環境省 渡邊

資料説明（資料2）

高橋委員長

資料2の19ページから50ページまで実質30ページある。印刷の都合により全体で24ページのパンフレットを作成する予定である。昨年7月に「再生普及推進のための連携チーム」の課題の1つであるパンフレットの作成を検討するという事に基づいて行われている。3月頃までには全体の構想を取りまとめ作成する予定である。

これは各小委員会からの活動報告を集めた報告書ではなく、釧路湿原を訪れる方、自然再生に関心を持たれる方、学校等を含めて中学生程度が無理なく面白く読めるよう、専門用語をなるべく使用せずに不正確にならないよう作成していきたい。

これまでに出てきた意見として、写真が細かい、専門的な資料写真が多く変えた方が良く、言葉遣いや漢字を易しくできないか等の意見がある。今日はいろいろな意見をいただき、貴重な意見として参考にパンフレットを作成していきたい。

全体で24ページのパンフレットに構成し直すので一度目を通していただきたい。

テディ齋藤委員

印刷サイズと印刷部数を教えて欲しい。

事務局 環境省 渡邊

印刷サイズはA4サイズである。部数は予算の関係上まだ決定していないが、1000部単位で作成する予定である。

高橋委員長

これまでのパンフレット作成は標準が 1000 部程度であり、予算にもよるが今回も 1000 部程になるのではないかと。

内容について率直な感想があれば伺いたい。

以前は違和感を持たなかったが、標題の「湿原とともに暮らす未来のために」というのは文章的におかしいのではないかと。英語に訳するとどうなのか。「湿原とともに暮らす」という文章の後に「未来の〇〇のために」という文章にならないとおかしいのではないかと。「湿原とともに暮らす」が「未来」を修飾する形が良いかと。「未来の子供たちのために」等にすれば「暮らす」という言葉に繋がる。

清水委員

より明確にするにはそれで良い。

事務局 環境省 渡邊

推進連携チームの中では特に意見は無かったが、仮のタイトルなのでこの場で意見があれば伺いたい。

高橋委員長

少し言葉を補う等した方が良い。色々と修正は出てくるかもしれない。

湿原に対する専門的な立場の方々がたくさん居り、湿原との距離感や向き合い方によって様々な感想がある。

高嶋委員

このタイトルではおかしいと説明されると、確かにそういう印象を受ける。パンフレットを具体的にどう利用するのか。副読本や勉強会の際に使用するのか、一般の関心のある方に配布するのか。

高橋委員長

18 ページ資料 2 にこのパンフレット作成に関する大枠の目的、取組概要が記載してある。スケジュールについては全体構想、第 5 章 7 項目にあたる「自然再生の普及と環境教育の促進」の中に盛り込まれている文言に基づいて作成することになっている。〈内容案〉の中の【8】湿原再生から【16～17】土砂流入までが各小委員会の釧路湿原自然再生の取組の活動報告になっている。文章を中学生でもわかりやすく読めるように湿原の自然再生活動が手に取るよう理解できる形にするために、各小委員会にお願いしないといけない。

基本的には一種の啓蒙的な形で使用し、場合によっては副教材のような形にもなり得る。釧路湿原に対する関心を持ってもらう導入部となるかもしれない。少し多様性を持たせた

パンフレットにしたい。

芳賀委員

写真が色々載せてあるが、写真にタイトルが無いものがある。タイトルが無ければ何の写真を載せているのかわからない。

高橋委員長

申し遅れたが、これを原稿と考えないでほしい。このようなスタイルにしていくという方向性を伝えるためであり、手元にあった写真を貼り付けている。これを最終版まで維持されると考える必要はなく、写真にタイトルは付けていく予定である。

事務局 環境省 渡邊

パンフレットはどういった場面で使用するのかは、18 ページ 2. 組織概要の 2 番目に記載している。基本的には各小委員会で行っている現地見学会、協議会構成員の地元の説明の機会等で説明者が使用することを想定している。

現在、各小委員会の活動をまとめたパンフレットが無いため苦慮している。推進連携チームの中でも、別途、一般の方向けに概要を説明したパンフレット（両面 1 枚程度）を作成すべきであるという意見があり、それについても作成する予定である。

自然再生協議会設立の際に、全体の概要を示したパンフレットを作成している。10 年以上経過していることから、内容がそぐわないところがあり使用できない。10 年を機にもう一度作成したい。基本的には説明者がいる中で、釧路湿原自然再生を説明するためのパンフレットである。

杉澤委員

このパンフレットはいつ発行されるのか。これが初めてのたたき台なのか。

高橋委員長

今年の 7 月に発行予定である。これが初めてのたたき台であり、これから意見、要望をまとめて作成していくものである。

杉澤委員

理解した。

高嶋委員

発行部数が 1000 部では足りないのではないか。

事務局 環境省 渡邊

あくまで目安であり、今の段階でははっきり申し上げられないが、最低限 1000 部は作成するつもりである。予算が確保されれば、さらに増刷を考えたい。

高嶋委員

作成する目的の一つに、説明する際に使用するパンフレットが必要ということがあるのか。

事務局 環境省 渡邊

そうである。

高橋委員長

協議会がスタートしてから 10 年が経過した。以前作成された釧路湿原に関する同様のパンフレットはもう無いのではないか。

釧路湿原に関する様々な写真集、説明、パンフレットは山程あり、自然再生に関するものも様々なレベルで出ているが、釧路湿原自然再生にはこのような委員会がありこのような活動をしているとわかりやすく網羅されたパンフレットはこれまで無かった。新しいパンフレットを作成して情報提供していきたい。

作成に当たっては、どういう形で誰を対象にし、文章量や専門性等について検討中である。

照井委員

我々の活動が知られていないという、全体構想での課題を解決したいのであれば、釧路湿原や自然再生事業に興味を持っていない方々を対象にした方がより効果的なのではないか。そういった方を対象にしたパンフレットも是非作成していただきたい。

この文章量では実際に読み返す人はいないのではないか。

高橋委員長

言葉遣いが気になるのか。

照井委員

ビジュアルの問題である。わかりやすく、文字量は半分程度要らないのではないか。

高橋委員長

文字は少なくても良いが、写真の資料は貼り付けただけと考えていただきたい。専門的な資料提供のようになるのは避けたい。

神田委員

実際に現場で説明する際に配布するイメージで考えてみた。説明時は、できるだけビジュアル的にわかりやすいものが良い。文章量が多過ぎるように感じる。文章よりも画像を入れた方が良い。

部数については、私個人で100部くらいは欲しい。そう考えると1000部だと足りないのではないか。あらかじめ希望部数についてのアンケートをとってはどうか。

高橋委員長

授業、講習会、研修等で学生達を使う事も前提としたものが良いのか。

神田委員

是非使いたい。蛇行復元等で資料を作成しているが、図が載っていてイメージできる方が説明もしやすいし、参加者もわかりやすい。その場で文章を読んでもらうというのは無理である。後で読んでほしいと言っても読まない。

高嶋委員

自然再生協議会説明時に、いつ頃の釧路湿原に戻すのかが大きなテーマとしてあった。

また、様々な場面で湿原面積の数字が違っており自然再生協議会で統一された。それらの経緯がどこかに書かれれば良い。

高橋委員長

素案には書かれていないが、あった方が良いか。

高嶋委員

あった方が良い。釧路川流域だけなのか、阿寒川の一部も含むのか、様々な議論があり最終的に面積が決まったと記憶している。

高橋委員長

それはある。よく言われるのはラムサール会議時点くらいまで戻そうということ。しかし、例えば中学生がラムサール会議の時点まで戻すと言われてもわからない。これまでの説明をそのまま踏襲するのは難しいが考えていきたい。

森委員

説明する人がいない場面で、例えばフリーペーパーのように自由に持って行って関心を引き出すようなことができれば、湿原再生の取組の裾野を広げるという意味で有効である。

高橋委員長

一般向けに別途作成するパンフレットについては作成時期が未定である。万能のパンフレットを作成するというのは無理があり、どこかでターゲットを絞る事や使用目的をはっきりさせる必要がある。カバーしきれない場面については何かの形で考えていく。

柏谷委員

パンフレットは WEB 上に公開して誰でも閲覧でき、また、印刷して配布できるようにすると良い。そのためには著作権法の使用承諾について、写真等の所有者に許可を受ける必要がある。

各小委員会の事業については記載されているが、各種自然再生事業が湿原の価値をどれだけ保全し向上させるのかについての記載が無い。自然再生事業が最終的にはこういった価値を増幅させる、若しくはそういう機能を増やす為に事業を行っているということを結びつけなければ、パンフレット作成の背景と目的に合致しないのではないかと。

例えば 20 ページ以降の「湿原の恵み」と書いてある機能や価値にナンバリングをしてこの事業は何番と何番の機能を重視して行っているという形にし、アウトプットとアウトカムのわかりやすいパンフレットにしていくのが良いのではないかと。

神戸委員

私は長年自然ガイドをやっている。花や鳥は説明するが自然再生に係わる説明をするガイドはあまりない。限られた時間の中で説明するので手短ではあるが、昔の湿原のデメリットである洪水の被害や農作物ができない谷地であったことを箇条書きにし、現在言われているメリットや様々に行われている自然再生事業についても説明している。

旅行者に一番接するのは自然ガイドであるが、ほとんど自然再生については触れていない。これを機にパンフレットができれば自然ガイドを集めてパンフレットを渡し、自然再生活動に関する要請をするような企画を行ってほしい。

久保田委員

こういう内容や趣旨を伝えるにはどうすべきかを、事務局と議論している状況である。ビジュアル重視については全く同意見であるが、図を見ただけで理解できるものとなると新たに作成する必要がある。今年度の作業は無理である。図の作成依頼や写真提供については予算との兼ね合いになる。いただいた意見を取り入れて最善のものを作成していく。

高橋委員長

7月の発行を目指しており、時間も無いが感想、意見を参考にし、具体的な使いやすいパンフレットの作成を目指していく。

意見があれば事務局にメール、電話などで意見を寄せていただきたい。

【議題3. 釧路湿原自然再生協議会基金の活用方法について】

事務局 環境省 渡邊
資料説明（資料3）

高橋委員長

2013年の自然再生協議会の際に、会長から「釧路湿原自然再生協議会基金」の活用方法について、再生普及小委員会で議論するように言われていた。事務局では資料52ページに掲載した4つの案について検討したが、実現が困難であるという結論に至った。

そこで10年経過したことへの記念として、様々な形で釧路湿原の自然再生活動に協力してくださったグループに対し、「感謝状及び活動支援金の贈呈」という名目で、基金は一度に使い切るということに落ち着いた。議論を重ねた結果、ベストだと考えられる案を今回提示している。来年の自然再生協議会あたりをめどに、感謝状と支援金の贈呈を考えている。

現在、基金は80数万円あり、活動支援金として8つのグループに10万円ずつ贈呈すると、使い切ることになる。人員の確保や事務負担を避けるため公募はしない。今回の案に対し、この場で異論がなければ、2月に予定されている自然再生協議会において再生普及小委員会から提案し、最終的に協議会で可決された後に執行することとなる。各委員から意見・感想をいただきたい。

井上委員

良い。

高橋委員長

今後も寄付金の募集は行わないが、10年程度経てば同様に寄付金は増えていくだろう。このような形で良いか。

近藤委員

難しい問題である。

杉澤委員

用途は指定するのか。

高橋委員長

基本的に自由である。活動をより効率的に行うために使って頂きたいと考えている。

杉澤委員

用途について報告義務はあるのか。

高橋委員長

特に考えていない。活動支援なので、報告を義務化できない。何らかの形で活動報告をしていただければありがたい。

成ヶ澤委員

小学校を対象にガイドを付けて釧路湿原をみてもらうような学習のバス代等、一部は子供たちに対して使って頂きたい。

高橋委員長

そのような意見はたくさん出たが、基金を使用するのではなく、再生普及小委員会で開催するイベントにおいて子どもたちを対象とし、湿原に誘うような企画を立ち上げることにより対応したい。

議論を重ねた結果、今回提案する案ならば、様々なことに抵触せず、事務的な作業も負担にならない。これまで活動続けてくれた方々に感謝を表し、活動を支援することができる。もし、反対意見がなければこの案で進めさせていただきたい。

【会場から異論出ず】

高橋委員長

協議会に提案させていただく。

【議題4. その他】

西山委員

(配布資料「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」についての説明)

環境省では「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」を展開している。森と里と川と海を単体ではなく全体として捉え、そこから大きな恵みを受けているということを国民の一人一人が認識し、継続的にその恵みを受けられるよう、良い形で次世代へ伝えていくことを共通認識として広めようという運動である。

一昨年から東京で勉強会を続け、昨年の6月30日には「中間とりまとめ」を発表している。プロジェクトの内容を周知するため、全国約50ヶ所でリレーフォーラムを開催しており、北海道では札幌市、滝川、黒松内、釧路市でシンポジウムまたはミニフォーラムを開

催予定。「釧路湿原自然再生事業」はまさにこの森里川海プロジェクトを具現化したものであり、釧路会場では筆頭事例として報告予定。都合のつく方は、是非ご参加頂きたい。

プロジェクトの詳細内容は、環境省のホームページにある特設ページをご覧頂きたい。

事務局 環境省 渡邊

今後の予定について連絡する。

自然再生協議会は2月29日に開催予定である。場所、時間等は詳細については後日連絡する。

次回の再生普及小委員会は、6月に開催予定である。詳細が決まり次第連絡する。

=閉会=